

あなたの
多彩な知見が活きる組織へ
入会のご案内

退職公務員新聞

一般財団法人 **日本退職公務員連盟**
〒113-0034 東京都文京区湯島4-12-3
☎03(3822)1216 FAX03(3824)7779
振替00150-9-94644
E-mail: yushima@nikkoren.info
号外

会長挨拶



長年の公務のご苦勞を労い 新たな門出に期待をかけます

一般財団法人 日本退職公務員連盟会長 **津島 雄二**

皆様、退職された今、肩の荷を降ろしたという実感がありませんか。長年、公務員として国家社会のために人生を捧げて来られた実績と充実感が湧き上がるのはこれからです。ご存知のように我が国は今、人類が経験し

たことがない超高齢社会を迎え、特に労働力人口の減少は、国の生産性と活力を脅かし、高齢者と女性の社会参加を求めています。皆様には健康と体力があり、活動の場と機会があれば「社会のために」という想いがおありと思います。再任用等の勤務の余力で、お住まいの退職公務員連盟でその思いを行動に移されませんか。

昭和27年からは、財団法人として、会員の生活基盤の確保を基本に「隣保相助、公共に奉仕」を掲げ、高齢者福祉の増進に取り組んできました。

平成25年に一般財団法人への移行に伴って、子育て支援、伝統文化の伝承、高齢者の慰問等活動を一層「公」にシフトしています。さらに、現職公務員や子育て世代の生活に関心をもち、広く国民の現状を踏まえた年金・医療・介護を含む21世紀型の社会保障制度改革を注視します。

世界の注目
日本の高齢社会
政府は今、「地方創生」「億総活躍社会」を目指す政策を打ち出しています。

「働き方改革」「幼児教育の充実」等を図ろうとしています。その目的は、国民が力を合わせて社会の活力を高めて世界が目指す幸せな超高齢社会を創ることにあります。支えて受けて

皆様、お感じのとおり、本年は新型コロナウイルスが日本人の考え方や文化にまで影響を及ぼし、私たちの心の拠り所を揺るがし始めています。

しかし、皆様は現職時代に培われた「公のために」という行動の軸とノウハウをお持ちです。若者や現職世代が働きやすく、安心して子育てをする環境を創る事業等に加わるに相応しい方々です。この活動に参加される日本の将来を見据えて、皆様は退職後の長い年月、健康と生きがいを手にして、人間関係を広げて、自立した生活を維持されることにつながります。

皆様、この交互作用を豊かに展開し、人類史に残る超高齢社会構築という壮大な事業に参加してください。退職を心の拠り所にして活動されることを願っています。

退公連は退職後の生き方の拠点 健康と生きがい、そして納得の人生の集大成を

われらの信条

- 一、われらはかつて公務員であった矜持と面目を堅持しつつ 理想的な日本公務員制度の確立を要望する
 - 一、われらは全国民の福祉増進を念じつつ進んで公共に奉仕し 平和的文化国家建設の大業に寄与する
 - 一、われらは和を貴ぶ 同胞融合 隣保相助の民風を尊重し 身をもってその育成につとめる
 - 一、われらは思想的 政治的自由をもち 常に公正と中庸において帰一する
 - 一、われらは組織のもとに団結する われらの生活はこの組織と団結によって断固自ら守りぬく
- 一般財団法人 日本退職公務員連盟

退公連が目指すもの

- ◎退職後の生活保障
 - ▼年金制度の改善・高齢者医療、介護制度の改善・充実
 - ▼高齢者及び女性の雇用、公務の特殊性に配慮した年金制度の確立
 - ▼社会保障制度の情報提供と改革への取組、年金相談の実施と充実
- ◎現役公務員の支援
 - ▼公務員の65歳定年制の実現
 - ▼年金制度の持続と次世代への引き渡し
- ◎社会貢献活動に積極的参加
 - ▼子どもの健全育成・学習支援、伝統文化の伝承
 - ▼高齢者施設慰問、街の清掃等による心が通い合う活力ある地域づくり
- ◎会員相互の交流と地域との信頼関係
 - ▼地域の人々と共に研修会、健康づくり、旅行、趣味の活動等
 - ▼もって、活力あるより幸せな長寿社会の実現をめざす



日公連の願いを高市前総務大臣に熱く語る津島会長

日公連の要望事項が制度化される 近年の年金制度改革

当連盟は、昭和23年発足以来、全国の公務員退職者が結集して恩給・年金制度改革に要望事項を掲げ、取り組んできました。ここで、日公連の最近の要望事項が実現、制度化された内容をとり上げます。

一 公務員の年金制度改革は、職務の特殊性、有為な人材確保に十分配慮すること

一 被用者年金制度の一元化に伴い、職域加算部分に代わる「年金払い退職給付制度」が創設された。

一 追加費用（恩給期間分の年金）の減額に配慮すること

一 基礎年金の国庫負担割合の引き上げ、恒久化すること

一 国庫負担割合1/3から1/2へ、そして恒久化された。

一 デフレ経済下でのマクロ経済スライドの実施は慎重に行うこと

一 年金額が前年度を下回らないこととして、賃金・物価上昇の年、その範囲内で次年度以降に繰り越す(名目下限措置)ことに。

一 在職者年金制度の改善を図ること

一 65歳未満の在職老齢年金の支給停止基準額28万円を47万円に引き上げる。

一 65歳以上の在職老齢年金額を毎年改定すること。

一 65歳定年を実現すること

一 第20国会で廃案になつた、国家公務員の定年を65歳に引き上げる法案を近々再提出の方向である。

一 今後の公的年金制度改革への日公連の対応

一 現在、公的年金制度は高齢者の生活を支えています。その年金給付費の約7割は現職世代の保険料で賄われています。その恩恵を受ける高齢者は、長年にわたる制度改革に努力された大勢の先達のご苦労に想いを馳せると共に、保険料を拠出して、制度を支える現職の人々に感謝したいと思います。そして、この制度を後世の人々が評価する内容にして伝えていきたいと願っています。

令和2年度
社会保障制度改革に関する要望事項

一 公務員の処遇の改善、有為な人材確保が公務員に専念できる環境整備

一 社会保障給付費の財源は安定した雇用と経済成長により確保

一 公務員の65歳定年制の実現

一 働く意欲のある高齢者・女性・子育て世代等が働きやすい環境整備

一 現役世代の収入と公的年金の給付水準と比較するときに、保険料等を年金額から控除した額で、単身高齢世帯の増加に留意

一 医療・介護保険制度の改革に当たっては年金生活者の負担に配慮

一 後期高齢者医療の窓口負担は、原則一割を堅持

会員の生き方と退公連の活動



『手縫いの袋 児童・園児に贈り続けて53年 針谷咲江さん』
(茨城県連坂東支部)



『要望書と署名簿を国会議員に手渡す』
(新潟県連西蒲・燕支部)



入会のお誘い —健康で、心豊かな老後のために—

日本退職公務員連盟組織委員長 山川勇一

各都道府県退職公務員連盟が加入している日本退職公務員連盟(略称日公連)は会員数約23万人の大きな組織です。
現在、組織は現職時代、教職、都道府県・市町村職員、警察官、

自衛官、郵政職員、消防職員等であった人々で構成されています。創立以来続けて活動は、国の社会保障制度改革に対応するこ

最近、会員数の減少傾向が続いています。おおくの会員は、新入会員の数が追いつかないのです。この流れに押し流され、

私たちは今、先輩の努力のお陰で、先輩以上の年金を受け取り、社会の一員として生活し、行動できています。ますますの高齢化が進展する中、私たちが今、制度の持続と生きがい及び健康寿命の延伸を願い、組織の活力を更に高めていきたいと決意しております。

制度改革に対応するこ及び様々な活動に参加して地域社会の活力を高めること。例えば恩給・年金の制度改革に長年関わり、最近では、基礎年金の国庫負担2分の1の恒久化。年金制度一元化に

現職公務員の待遇改善、子供の学習を支援する寺子屋塾、街の清掃や高齢者施設の手伝い等は地域社会の信頼を高めます。また、地域社会に貢献しようとする意欲と行動力が組織の

中では減退していきます。熱意と力は欠かせません。心豊かに生きるために皆さん、どうか退公連に入会し、その活動に知恵と力を貸してください。そして豊かで多彩な知見を、地域社会のため、人のため、ご自分のために活用されて、健康で心豊かな第二の人生を築かれることを心より期待し、入会をお待ちしています。

退職後の私

仲間がいてよかった

島根県退職公務員連盟鹿足支部 中井富美子

昭和58年、私は定年まで2年という時に養母の介護のため退職。その当時はまだ介護保険がなく、自分で看なくてはならなかったのです。介護法の講習を探しては受講して心の準備から始めました。一方、自分の生きがいも必要と感じました。それで趣味としていた手編みの研究をすることに決め、早速通信教育を取り寄せて暇に勉強し、幸いにも2年で講師の資格が取れました。

昭和58年、私は定年まで2年という時に養母の介護のため退職。その当時はまだ介護保険がなく、自分で看なくてはならなかったのです。介護法の講習を探しては受講して心の準備から始めました。一方、自分の生きがいも必要と感じました。それで趣味としていた手編みの研究をすることに決め、早速通信教育を取り寄せて暇に勉強し、幸いにも2年で講師の資格が取れました。

90歳の時病気をしてから体力が落ちて、日常の動作に少し補助が必要な体になり、離れて暮らす子供達に気を遣わせますが、もう少し頑張ろうと思えます。退職してから30年退公連に所属し、女性部で温泉巡りをしたり食事会などに参加して同じ道を歩んだ者としておしゃべりできたことは懐かしい思い出です。住まいの地区で「コーラス会」ができて、月1回集まって童謡などを合唱し、高齢者施設への慰問にも出かけたいへん喜んでいただきました。仲間がいてよかったと思っています。



『コロナ禍、登校時児童の検温』(岐阜県連岐阜支部)

『椎首の「ムク打ちする児童』(大分県連豊後高田支部)

『介護施設で雑巾づくり』(岐阜県連下呂支部)

『小学生にミシンの指導』(福島県連大沼支部)

『羽蝶蘭を育てる』佐藤時男さん(山形県連東村山支部)

『ロシア兵墓地を清掃する』(愛媛県連松山支部清水分会)

日公連70年の歩み

- ①昭和23年2月「全国恩給増額期成同盟」誕生。
- ②同年5月第1回全国大会を開催、26道府県参加。
- ③同年7月恩給増額法可決 恩給額は12~26倍となる。
- ④同年11月「全国恩給受給者連盟」に改称。
- ⑤昭和24年加盟団体は46都道府県に、昭和33年沖縄県連の加盟により47都道府県になる。
- ⑥昭和25年「日本退職公務員連盟」と改称。
- ⑦昭和26年5月「退職公務員新聞」創刊。
- ⑧同年6月「財団法人日本退職公務員連盟」設立趣意書及び「われらの信条」を決議し、発表。
- ⑨昭和27年4月28日天野貞祐文部大臣より、「財団法人日本退職公務員連盟」の設立が許可される。
- ⑩連盟創立10~20周年の間に、毎年の公務員給与アップに伴う恩給増額、不均衡是正など多くの運動の成果を挙げて組織も拡大した。
- ⑪昭和48年以降、公務員の給与の改善と物価の上昇率を恩給・年金に反映させる方式となる。第1回全国婦人部長会開催
- ⑫昭和49年日本退公連会館が竣工。
- ⑬日公連は公務員の職務の特殊性を主張。昭和61年公務員固有の「職域年金部分」が新設された。
- ⑭平成12~26年度本来水準を上回る年金額維持に尽力。
- ⑮被用者年金一元化に伴う年金の減額に関する活動により一定の配慮措置がつく。
- ⑯平成25年4月『われらの信条』の下、「一般財団法人日本退職公務員連盟」として、社会保障制度改革に関する要望活動、地域社会の活性化に強力に、継続的に関わる新たな活動のスタートをする。
- ⑰超高齢・人口減少社会における社会保障制度の在り方及び活力のある地域社会構築を今後の課題として取り組む。
 - 年金制度の持続可能性の確保
 - 将来世代の年金給付水準の確保に向けた努力
 - 退公連と地域社会との関係強化
 - 会員の豊かな人生構築に力を貸す退公連の活動
 - 頻発する自然災害被災会員への義援金送付

共に行動し、健康と生きがいを生み出す退公連をつくらう

都道府県退職公務員連盟 支部名

令和2年度 会員構成

(令和2年9月末現在) 単位:人

正会員	男	150,833	職種別内訳	教職	116,282	郵政	1,738
	女	95,365		都府県職	7,715	農林	276
準会員	男	66,276	職種別内訳	市町村職	14,338	電電	67
	女	55,468		警察	5,587	専売	27
賛助会員		13,073	消防	2,419	国公	1,413	
会員総数		230,182	日鉄	185	その他	786	